

講演「会話から生まれる新たなまちのデザイン」

講演では「会話から生まれる新たなまちのデザイン」をテーマにご自身が携わられた2つのプロジェクトを紹介し、会話からどのようにしてアイデアが生まれ、まちをデザインされていくのかお話しいただきました。

1つ目は宮城県女川町の震災復興で行われた女川駅から海に向かって伸びる歩行者専用道路「レンガみち」とその先に設けられた公園「女川町海岸広場」です。これらは、専門家や町長、部長等が出席するデザイン会議で質・スピードを落とさずに議論し、まちの構想を決めていきました。「レンガみち」の途中には道を挟むようにして商業施設「シーパルピア女川」があり、それぞれ女川町と民間のまちづくり会社が整備していますが、公共空間に面した民間の建物もレンガを使い材料を揃える等、官民境界を感じさせない空間につくりあげ、公共施設と民間施設が一体化するデザインを実現しました。「女川町海岸広場」は、地元の方々や頻りにワークショップを行い、子どもに目が行き届くように「レンガみち」の先に配置してほしい、という意見から配置を変更しました。また、空間の活用方法では、地元の商工会や商店街等の、町をずっと作ってきた若手リーダーたちと模型を見ながら議論し、デザインを組み立ててきました。この計画は二転三転どころではなく四転五転したそうです。

2つ目は兵庫県神戸市三宮の「サンキタ通り」です。神

戸市ではこのエリアを街路、広場、沿道建物が一体となったウォークアブルな空間とすることを目指しており、鉄道会社の駅ビルと高架下のリニューアルに合わせて整備が行われました。整備前の「サンキタ通り」は高架側の歩道が狭く、通過車両と路上駐車がひしめき、夜は客待ちタクシーが並ぶ状況でしたが、タクシーの客待ちスペースを移動、高架側の歩道を拡幅、一般車を通行止め、歩車道境界の段差解消等によりウォークアブルな空間に再編しました。さらに、高架側の歩道は関係者で議論を重ね、「歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度)」を利用し、民間敷地と約1.5mの公共の街路スペースを組み合わせることで、オープンカフェを実現させ、沿道店舗と街路の一体的な賑わいを生み出しました。街路の占有

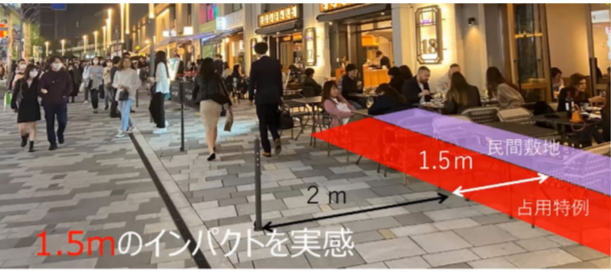


●公共施設と民間施設が一体化(宮城県女川町 レンガみち) 官民境界線より手前の「レンガみち」は女川町の公共事業、奥の施設、中庭等は民間のまちづくり会社が整備。中庭等に「レンガみち」にしみ出てくるような、官民境界を超えて一体化したデザイン。

小野寺康氏(小野寺康都市設計事務所)

は、地元の企業と市で組織される任意団体が主体となっており、利用上のルールを明示することで、荒れることなく活用されています。

小野寺氏はまちのデザインについて、「これまでデザイナーがアイデアを出して整備し、まちの方々に受け渡すことが多かったかもしれないが、今やデザインの検討途中から地元の方々や会話し、ワークショップを積み上げてデザインを変える。そして、一緒になって作っていく、出来るようになるには地元の方々や既に自分たちのものだって思っているという結果に至るというのが、これから主流になると思われるし、少なくとも私はそういうふうやりろかなと思う。」とお話していました。



●制度を活用した道路空間(兵庫県神戸市サンキタ通り) 「ほこみち」制度を利用。2m程は歩行者幅員として確保し、残りの約1.5mのスペースは占有特例で民間敷地と合わせてオープンカフェの空間に使用。

ディスカッション

社会実験報告と講演を踏まえ、実験関係者、市職員、地元店主、専門家らによるディスカッションを行いました。各々の視点から今年度の社会実験の感触として、周知が不十分だったことが共通の課題でありました。大森氏からは「周知に向けて手広くやっていたが中々難しく、地道に着実にやっていくしかない。タイトなスケジュールでやっているの、地元の方と小野寺氏の講演にあった二転三転といった密なやり取りはできていないのが実感である。今年度、個人と商店主とお話する機会が得られたので、次年度はさらに強化していきたい。」と話しました。

小野寺氏は、講演で紹介した女川や神戸の事例と水戸との違いについて、「水戸はあまり困っておらず危機感がない。」ことを指摘し、地元の雰囲気について久保田氏は「危機感がない方は多いと思う。まあいいのではないかと、誰かがやるからいいのではないかとという人が多いから活性化されないのかなというのもあると思う。」と答えました。そのような状況について小田木氏は「成長し続けてい

く意味合いにおいては危機感を持たざる得ないと思う。次の世代にきちんと残しておこう、残していかなければという意識を持っていただかないとまちの発展は絶対にありえないし、ここは行政だけではなくまち全体として意識を持ちたいと思う。」と話しました。

会話から生まれるデザインについて小野寺氏は「まだ主流とは言えないが起り組みでは、コンサルタンツ会社のスタッフであるコーディネーターの存在があり、地元の方や行政、デザイナー等の横をつなぎワークショップ等を仕掛けていった、とのことでした。

最後に小野寺氏は「水戸は危機感がないまま何もできないのかということ、そうでもないと思う。姫路の駅前広場や神戸の三宮の「えきまち空間」の構想は、一人の担当者の頑張りや全て動かした。行政マンには、担当者という力がある。周りが盛り上がりがないなくても、誰かが本気になって動いたら動く、ということは私も経験上見ている。」

と話し、金会長は「行政マンも民間あるいは商工会、コンサルタンツの中で誰かリーダーシップを取る人が必要だ、ということなんだと思う。」と話しました。

総括として金会長は、「今年度、ここまで継続できて大変よかったのではないかなと思う。検証しながら前に進んでいるな、ということも分かった。今回、官民連携での会話によるデザインが大事であるとお聞きして、水戸でもやはり続けていければいいなと思った。私自身は来年度が正念場かなと思っているので、やり続けることが大事、小さく始めて大きく育てるということで、楽しく会話をして、寛容にやっていければと思う。」と話しました。

- 進行：金利昭(水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会)
ゲスト：小野寺康(小野寺康都市設計事務所)
小田木健治(水戸市長公室長)
久保田光代(Vegan Cafe terraオーナー)
上野嶋一郎(茨城大学工学部都市システム工学科)
大森賢人(水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会事務局)

次年度のお知らせ
令和5年度は、令和3年度に策定した未来ビジョンや今年度の成果を踏まえ、①「水戸まちなかデザイン会議」(水戸のまちなか再生に向けて、まちなかの在り方やライフスタイルを自分ゴトとして考え、挑戦する場)の継続開催、②「歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度)」等の各種制度について、水戸のまちなかでの適用可能性の調査・検討、③社会実験「水戸まちなかりんぷ作戦」の実施・実験結果の検証を行う予定です。引き続きご協力・ご支援の程どうぞよろしくお願いいたします！

2023.3.31 Vol.10 発行：水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会事務局(株式会社まちなかトラボ) 水戸市南町1-2-32 M-WORKビル Tel.029-388-1580
編集：水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会 魅力発信・デザイン検討委員会、TRIX MAG.編集部

まちなみトラボが提案する水戸のキュレート・ポータルサイト「TRIX MAG [トリックスマガジン]」
「TRIX MAG [トリックスマガジン]」では、ピックアップイベントの紹介、今日明日・週末のイベントがピンポイントで検索できるイベントサーチ、バイリンガルの水戸の観光案内情報など様々なコンテンツをご用意しています。ぜひ、ブックマークしてみてください。イベント情報もぜひお寄せください。
http://www.trix-mag.com

水戸のまちのIMAがわかるフリーペーパー
TRIX MAG MEDIA MIX FREEPAPER
http://www.trix-mag.com
VOL 10 2023 SPRING

TRIX MAG. paper はウェブサイトTRIX MAG. [トリックス マガジン]と連動して不定期発行するフリーペーパー。TRI=3、X=10 で310=水戸を表し、水戸芸術館でもタワーのモチーフになっている10個の三角形をあしらっています。アートや音楽、演劇、映画、ライフスタイルのカルチャーコラムを中心に、水戸のまちなかで行なわれる催しの情報を発信していきます。

水戸のまちなかに関わる人たちとディスカッション
第3回 水戸まちなかデザインシンポジウム
3/12 2023 13:30~16:00 オンライン開催
Zoomウェビナー+YouTube live配信
社会実験検証結果(会場利用者の声・交通データ・会場利用の効果・SNSでの情報発信・グリスロの効果)
分析の結果①

第3回水戸まちなかデザインシンポジウムを開催 社会実験の報告・検証、水戸のまちなかのデザインについて議論

2023年3月12日、「第3回水戸まちなかデザインシンポジウム」を開催しました。今回のシンポジウムでは、はじめに2022年10月に実施した社会実験「水戸まちなかりんぷ作戦2022」の内容や検証結果を紹介しました。検証結果は、①会場利用者へのアンケートやヒアリング、水戸のまちなかで暮らす方々へのアンケートによる社会実験全般に関する評価、②AIの画像解析を活用しグリーンズローモビリティ(以下、グリスロ)が走行した南町2丁目裏通りの車両の交通量や速度の交通データと会場利用者の滞留状況や動線に関する分析結果、③SNSを活用した情報発信の成果、④グリスロ利用者へのアンケートとヒアリングによるグリスロの利用実態や利用者の意識の分析と今後の水戸のまちなかにおけるグリスロの活用可能性についての考察を報告しました。

次に、小野寺康氏(小野寺康都市設計事務所)による講演が行われ、「会話から生まれる新たなまちのデザイン」をテーマに、宮城県女川町や兵庫県神戸市三宮の取り組みが紹介されました。地元で暮らす人や企業、行政と共にどのようにしてまちをデザインし、つくりあげていくのか、そのプロセスをお話しいただきました。最後に、社会実験の報告や講演を踏まえて、関係者らによるディスカッションを行いました。前半は今年度の社会実験について振り返り、それぞれの視点から体感や課題等を議論しました。後半は小野寺氏による講演を受け、紹介した事例や会話から生まれるまちのデザインについて深掘りしました。ま

た、水戸のまちなかの現状について、事例で紹介されたまちと比較して課題や参考になることを共有し、今後の水戸のまちなかでの取り組みに向けて議論しました。(シンポジウムの様子はYouTube「水戸まちなかチャンネル」にてご覧いただけます)
TRIX MAG本号では「第3回水戸まちなかデザインシンポジウム」の振り返りとして、社会実験の検証結果や小野寺康氏による講演、ディスカッションの内容についてご紹介します。

●詳細はこちらから
シンポジウムの様子はYouTubeにて配信中
水戸まちなか大通り等魅力向上検討協議会HP

PROJECT REPORT 社会実験「水戸まちなかりビング作戦2022」検証結果 (場所:水戸市南町～泉町周辺大通り・裏通り/期間:2022年10月9日～10月30日)

取り組みに対する会場利用者・まちなかで暮らす人の評価

◆実験会場別レポート (n=35)

利用目的については、大半が「休憩」、「飲食」、「散歩」のいずれかでした。会場の満足度については、不満の声がなく、8割以上が満足し、9割以上が実験期間後も継続的に利用したいと回答しました。自由意見には、「Wi-Fiが使いやすかった」、「常設のカフェや飲食店があれば、もっと盛り上がる」、「まちなかに犬が遊べる場所が少ないので、ドッグランはすごくいい」等がある一方で、「屋外空間だから暖房がないと寒い時に使えない」、「テーブル下の埃やゴミが気になった」という意見もありました。

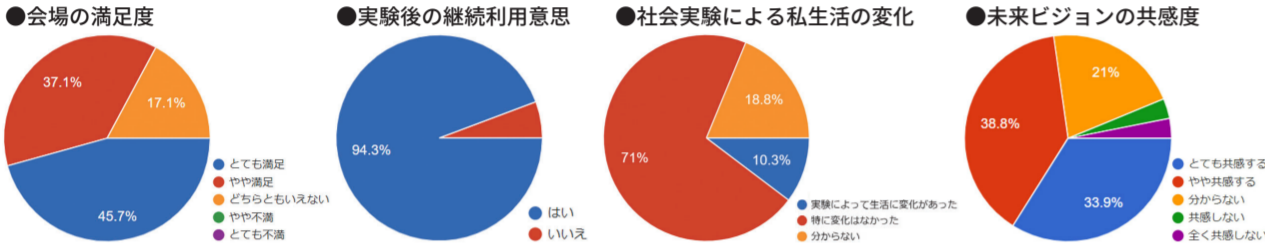
◆会場利用者ヒアリング (n=25)

社会実験による生活の変化については、「買い物後、外でコーヒーを飲むようになった」、「子どもが昼寝したタイミングで休めた」等、テーブルやベンチを設置したことで

休めた、というお声をいただきました。実験への感想については、グリスロを継続してほしいという肯定的な意見が非常に多く、また、南町自由広場に設置した植栽に対して、「子どもが歩道に飛び出さないため、安心して利用できる」といった声がありました。

◆住民等意向調査アンケート (n=224)

実験期間後、近隣マンションや企業、学校等に対して行ったアンケート調査では、約1割が実験によって、私生活に変化があったと回答しました。また、快適な居場所作り・自家用車に代わる新たな移動手段に関する取り組みの継続を約7割が希望していました。昨年度策定した「未来ジョン」については、約7割が共感、約2割が分からないと回答し、水戸のまちなかが寂しくなっていることに対して、なんとかしたい、挑戦していくことが大事等の意見がありました。



会場利用者ヒアリング (n=25) でいただいた意見

■実験によって生活に変化はありましたか?

- 今までは買い物後まっすぐ帰っていたが、外でコーヒーを飲むようになった。
- 子どもが昼寝したタイミングで休める。
- 何度もTOCO-TOCOに乗って買い物に行ったり、散歩をしたりした。
- 南町自由広場で仕事をするようになった
- テーブル・イスがあることでレジャーシートを引くことがなくなった。

■水戸まちなかりビング作戦 (TOCO-TOCO含む) への感想や意見

- 歩く目的がない。休める場所は欲しい。テイクアウトできても、飲食できる場所がない。
- トコトコ (グリスロ) いいね、若い人が頑張っているいい、もう少し歳をとったら生活に必要なし、お金払っても利用したいルートを複数つくり、地域がもっと広がると利用価値が高そう。
- トコトコが便利そう。ルートの沿道のお店に行ってみたくなると思う。
- 今年になって子どもが歩くようになったから気づいたが、自由広場の周囲に植栽があると子どもを走らせていても、飛び出さないから嬉しい。
- TOCO-TOCOを継続してほしい (できれば無料)。
- 活性化の活動を上げてほしい。
- 南町が一息つける場所となって、まちなかを歩けるといい。
- ご年配が多いまちなかで、いいと思う。バス以外の手段でまちなかで移動によって、人が増えたらいいと思う。

AI画像解析による交通データや会場利用への効果 調査協力:株式会社日立産業制御ソリューションズ

グリスロの走行ルートである南町2丁目の裏通りで、定点観測した映像をAI画像解析にかけ、グリスロの導入実験に伴う裏通りでの車両の交通量や速度の変化を調査しました。

◆車両交通量

通行台数は、実験期間に関わらず平日が休日よりも多く、期間中と期間前後で比較しても大きな変化は確認されませんでした。

南2丁目裏通りの通行台数			
	期間前	期間中	期間後
平日	10/4(火) 1,111台	10/25(火) 1,141台	11/8(火) 945台
休日	10/2(日) 540台	10/30(日) 639台	11/13(日) 518台

◆車両速度

車両速度も実験期間中と期間前後で比較しても、特に変化は確認されませんでした。このことから、グリスロの走行が南2丁目の裏通りの交通状況に大きな影響を与えないことが分かりました。また期間中、裏通りに車両速度の減速をお願いする看板を設置していましたが、上記のとおり減速効果は認められませんでした。

●AI画像解析による車両速度調査

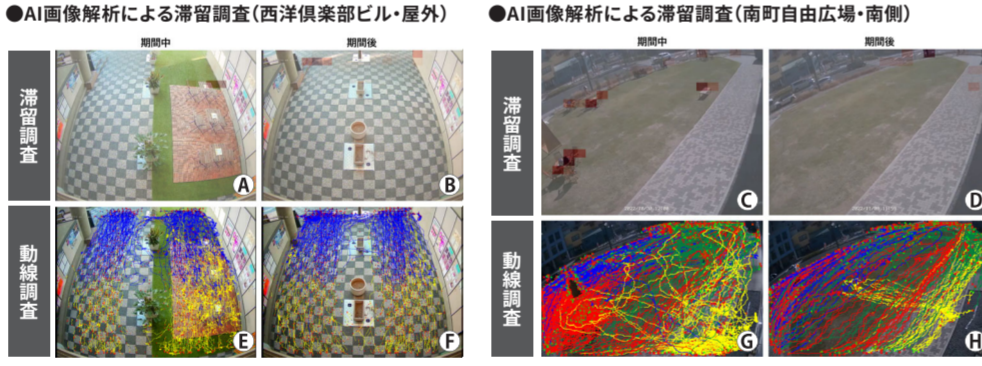
一方で、期間問わず車両速度の最大値が70km/h付近であることが確認されたため、減速のための取り組みが必要であると考えられます。

実験会場である西洋倶楽部ビルと南町自由広場にて定点観測した映像をAI画像解析にかけ、居場所作りによる会場利用者の滞留状況と人の動線 (以下、人

流)の変化を調査しました。

◆滞留調査
期間中、テーブルセットやベンチ等を設置したことで、人が滞留していたことを示す赤いメッシュが画像上に表示され、特に南町自由広場で顕著に表れていました (A、C)。期間後、それらを撤去すると滞留する人は確認されず (B、D)、テーブルセット等により滞在性を向上させていたことが分かりました。

◆人流調査
西洋倶楽部ビルでは、画面左側の人流が期間中 (E)、期間後 (F) と比較しても過密にならず、テーブルセット等が通行を妨げることはありませんでした。南町自由広場では、期間中 (G) は人流が複雑な動きをしているのに対し、期間後 (H) は通り抜けと見られる動きが多くなり、居場所作りにより滞在性の向上と合わせて、多様な空間活用に貢献したことが分かりました。



SNSによる店舗情報の発信の成果

Instagram & Facebookにて49店舗の記事UP

10/8-10/30の投稿に対する閲覧は4,150アカウント！うち、3,880がフォロワー以外のアカウント

インタラクションの合計は1,607件
プロフィールへのアクセスは904件

取材・記事作成:水戸まちなかりビング作戦実行委員会の皆さん

社会実験期間中、多くの人に新しい水戸のまちなかの魅力を知ってもらうためのプロモーション活動として、運営スタッフ「水戸まちなかりビング作戦実行委員会」のメンバー15名が主に実験エリア内の店舗に取材を行い、49店舗の紹介記事をSNS (Instagram・Facebook) に投稿しました。

10/8から10/30の投稿に対する閲覧は4,150アカウントに達し、大半の3,880アカウントが当アカウントのフォロワー以外でした。さらに、ユーザーが何らかのアクションを行ったことを示すインタラクションは合計で1,607件あり、そのうち本アカウントのプロフィールへのアクセスは904件という結果になりました。この取り組みによって、地元店舗の方と実行委員会のメンバーとのつながりを作り、SNSユーザーには水戸のまちなかの店舗情報を発信し、閲覧されることで本協議会や取り組みへの認知向上にも貢献しました。

各SNSでも発信中!

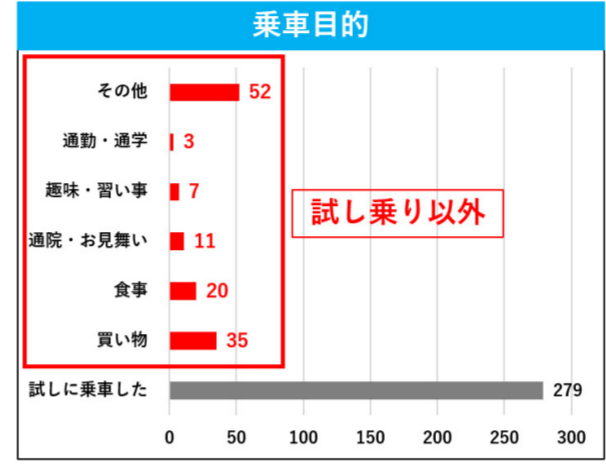
mitonomachinaka で検索!

Facebook Instagram HITONOMACHINAKA

水戸のまちなかにおけるグリスロの効果 調査協力:上野堀一郎 (茨城大学工学部都市システム工学科)

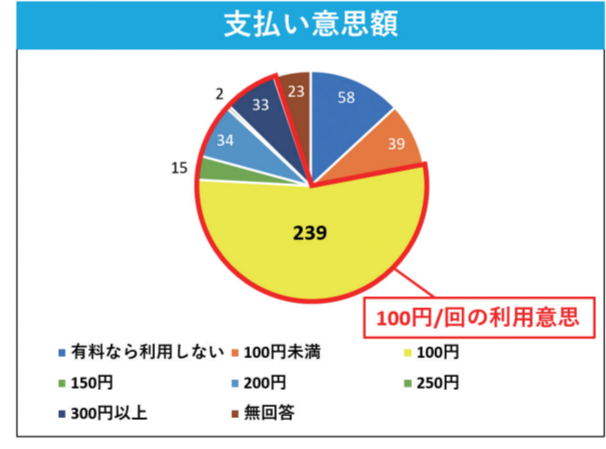
◆まちなかにおけるグリスロ効果の検証結果

●乗車目的について
「買い物」、「通院・通学」等の目的意識を持った「試し乗り以外」での乗車が約3割確認されました。年齢層別では、65歳以上の女性が他の属性と比較して、何らかの目的を持って乗車する割合が高いことから、女性高齢者は、比較的グリスロを上手く自身の生活に活用している傾向が示唆されました。



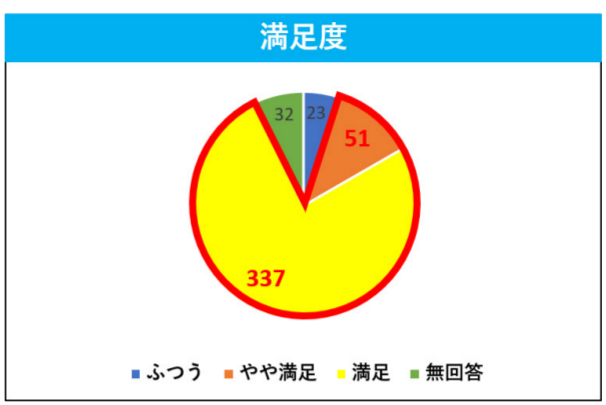
●支払い意思額について

1回の乗車につき100円を支払える人の割合は、約7割が占めていました。料金を徴収することへの抵抗感が少ないものの、半数が100円/回のため、高い支払い額とは言えない結果になりました。年齢層別では、65歳以上の女性は「1乗車当たり200円以上でも利用したい」との回答が約4割を占め、女性高齢者から高い評価を得ている可能性が示唆されました。



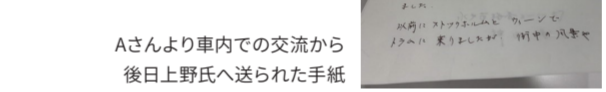
●満足度について

「満足」、「やや満足」合わせて9割以上と、満足度が非常に高いことが確認されました。



●利用者の声

水戸のまちなかに居住する70代女性Aさんは、買い物や郵便局、実家への移動等、自身の日常生活の移動に活用していました。「荷物がいつも重たいので、グリスロがあると楽で助かっている。」と話しており、後日、上野氏との車内での交流から手紙が送られました。このことから、「グリスロでの移動体験がもたらす効果」として、「新しい人との交流を紡ぎかけとなる」、「高齢者の移動の負担が減り、外出しやすくなる」といった効果が示唆されました。



Aさんより車内での交流から後日上野氏へ送られた手紙



まちなかに勤務する男性Bさん (左) は、運行期間の30日間の中で16日間乗車し、グリスロを大変気に入られていた。乗車すること、人との交流を楽しんでおられ、「解放感のある眺めから見えるまちなかの景色や、他の乗車との会話を楽しむために乗車している」と話されていた。

◆まちなかにおけるグリスロの活用可能性に関する考察

●便益の評価方法の検討について
グリスロの移動がもたらす便益として、「まちなかでの移動自体を楽しむ効果」、「まちなかでの新たな消費意識を醸成する効果」、「新しい人との交流を紡ぎかけとなる効果」の3つの波及効果が得られました。しかし、支払い意思額の回答より「1乗車当たり100円での利用」が9割以上を占めており、この結果では運賃収入のみによる運行の継続は現実的ではないため、上記の波及効果をもたらす便益を考慮して、今後評価を行う必要があると考えられます。

●近隣住民のライフスタイル変化の可能性について

グリスロがもたらし得る、近隣住民のライフスタイル変化の可能性については、「高齢者の移動の負担が減り、外出しやすくなる」、「まちなかでの消費意識が醸成される」ことが示唆されました。今後、水戸のまちなかのグリスロの浸透、普及によってまちなかの回遊性が向上すると、まちなか商業としては、まちなかでの消費行動が増加する。近隣住民の高齢者としては、まちなかの利便性向上やグリスロを通じた新しい人との交流機会の増加で、まちなか暮らしの満足度が高まることから期待されるのではないかと考えられます。

●今後の展望について

「グリスロでまちなか店舗の利用の流れを生み出す」、「まちなか店舗は協賛金等でモビリティの運営を補助する」といった形で、近隣住民等のまちなか利用を促進しつつ、衰退の進む水戸のまちなかの価値をモビリティと地域商業の協働で総合的に高めていくことが望ましいと考えられます。

その他の意見

■移動自体がもたらす効果

- アトラクショナルな感覚でグリスロの乗車を楽しむ
- 窓がないので風が入り気持がよい、リラックスできる
- 開放的な車内だから寒い ○段差や振動が響く

■移動手段としての効果

- 乗り降りしやすい ○まちなかの移動手段として便利

■その他の効果

- ドライバーが親切 ○車内で会話しやすい

■その他

- ルート延伸 (水戸駅、千波湖、偕楽園等) の希望 等

検証結果

◆取り組みに対する会場利用者・まちなかで暮らす人の評価

会場利用者、水戸のまちなかで暮らす方々に、今年度の社会実験や活動に関するアンケート、ヒアリングを行いました。利用者からは、不満の声はなく、高い割合で満足し、継続を希望していました。また、社会実験によって自身の生活に変化があったことが確認されました。まちなかに住む方からは、昨年度、策定した「未来ビジョン」に対する否定的な声は少なく、多くの方に共感をいただき、快適な居場所作り・自家用車に代わる新たな移動手段に関する取り組みを求めています。

◆AI画像解析による交通データや会場利用への効果

グリスロが走行していた南町2丁目の裏通りや実験会場で、定点観測した映像を分析した結果、裏通りの交通は、実験期間中と期間前後で交通量、車両速度ともに大きな変化は確認されず、グリスロによる裏通りの交通流への影響はありませんでした。実験会場では、テーブルやベンチ等を設置し、居場所を作ったことで、人々がそれらを利用し、実験前後よりも空間に長く滞留していることが分かりました。

◆水戸のまちなかにおけるグリスロの効果

水戸のまちなかでのグリスロは、利用者に非常に高い満足度をいただきました。その移動がもたらす効果としては「まちなかでの移動自体を楽しむ効果」、「まちなかでの新たな消費意識を醸成する効果」、「新しい人との交流を紡ぎかけとなる効果」の3つの波及効果が得られました。また、近隣住民のライフスタイル変化の可能性については、「高齢者の移動の負担が減り、外出しやすくなる」、「まちなかでの消費意識が醸成される」ことが示唆されました。

◆SNSによる店舗情報の発信の成果

水戸のまちなかの体験をしてもらうため、社会実験運営スタッフが店舗に取材を行い、紹介記事をSNSに投稿してきました。店舗取材を通して、昨年度にはなかった地元の店舗の方と会話する機会が生まれ、つながりを育むことができました。SNSでは期間中、当アカウントをフォローしていない多くのユーザーが投稿を閲覧し、さらに、閲覧から当アカウントのプロフィールを確認する等の動きも確認され、本取り組みへの認知度向上に貢献していました。

